

かがわ里海聞き書きプロジェクト web 報告書 vol.5

「かがわ里海『聞き書き』プロジェクト」中間レポートフォーラム

里海の記憶～香川は里海でつながっている

-
- ・開催日時：2015年12月20日（日）13:30-16:00
 - ・会場：丸亀町レッツホール
-



山川海に囲まれた香川県は、古くから自然と共生し、持続的に暮らす知恵や技を培ってきました。そんな生きた言葉を求めて、山へ、川へ、里へ、そして海へ… 2015年秋、23人の若者たちが24人の里海名人を訪ねました。

「里海」というつながりは、里海名人1人ひとりの取材では見えづらくても、24人を包括的に捉えることで、ようやく姿を現してきました。山の暮らし、海の暮らし、里の暮らし、川のそばの暮らし…。名人が住む場に立会い、一つひとつの事例を知り、暮らしを聞き、生きてきた歴史を伺う。単に一つの事例を紹介するだけでは言葉足らずになってしまいます。24人の里海名人を紹介することでようやく見えてくる「つながり」が「里海」なのだと、分かり始めました。



2015/12/20（日）に開催された「かがわ里海『聞き書き』プロジェクト」中間レポートフォーラム」では、学生を中心とした参加者が、里海名人へのインタビューを通じて得た気づきや発見を発表しました。



フォーラム第1部は、広島大学名誉教授であり、かがわ「里海」づくり協議会アドバイザーでもある松田治氏をゲストとしてお招きし、里海にまつわる講演が繰り広げられました。

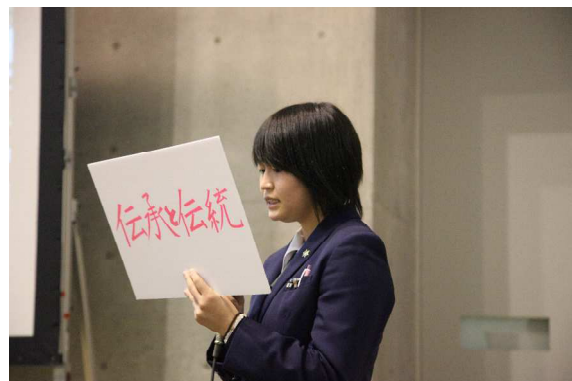


スライドを通じて見る写真やデータ、そして松田治氏の話に、大勢の方々が聞き入っていました。



第2部は、参加者の皆さんによる中間発表。参加者がそれぞれ取材した里海名人を1分間で紹介し、自分たちが感じたこと・受け取ったもの・これから必要だと思ったものを語ってくれました。

庵治の海底を知り尽くした潜水漁師の話、満濃池・ため池の記憶、綾川のどじょうを守る川漁師の話、五郷の木挽き職人の話……山川里海、生活の知恵から自然の在り方まで、かがわの「里海」を巡り24人の里海名人を取材してきた参加者が、自分たちの言葉で紹介することが「聞き書きプロジェクト」の魅力。





その後は松田治氏を含め、参加者を支え続け共に里海を巡った 5 名のコーディネーターと、香川県環境森林部環境管理課の水環境・里海グループの大倉恵美課長補佐、司会進行の小西氏とが里海について語り合うフリートークの場となりました。



コーディネーターは、瀬戸内海の島々を紹介するコミュニティ・マガジン編集部のスタッフ等。日頃から、島の長老たちへの聞き取りやフィールドワークを通じて雑誌制作をしているプロライター等によるフォローが、このプロジェクトの特徴の一つでもありました。

また、かがわの里海づくりの取り組みも紹介され、多くの方々が「聞き書きプロジェクト」を通じて「かがわの里海づくり」に触れる場となりました。



また、会場には取材させていただいた里海名人も訪れてくださり、それぞれ生きた言葉を聞く貴重な機会にもなりました。



「かがわの里海づくり」。それは、海だけでなく、海につながる山・川・里(まち)を含めて、適切に関わることにより、水産資源だけでなく景観、憩いの場、食文化、観光など多くの恵みを享受できる「人と自然が共生する持続可能な豊かな海」を目指す取り組み。



今回の聞き書きプロジェクト・フォーラムは、聴講者はもちろん参加者もコーディネーターも含め、一人ひとりが「里海って何だろう」と思案するきっかけの場となったでしょう。

24人の里海名人の取材は、2016年3月に「里海読本（仮）」としてひとつの冊子になる予定です。参加者23人が取材した里海名人の生きた言葉・現場からのメッセージなどを、より詳しく紹介する予定です。